

夢湧き夢に夢中

第6号

令和7年6月6日 文責：大谷

“夢があるから、チャレンジできる”

「俺は、巨人はいつちよん好かんばってん、長嶋と王は好きたい」

わたしがまだ小学生だった頃、夕食ときのいわゆるゴールデンタイムに家族みんなで観るテレビ番組と言えば、大抵「ナイター中継」だった。しかし、中継されるのは専ら巨人戦だけで、大の阪神ファンだった亡き父は「なんや今日も阪神じゃなかつや」と、当時よくぼやいていたことを思い出す。しかし、王貞治選手が打席に立つときだけは、焼酎の入ったグラスを持つ手を止め、テレビに釘付けになっていた。そして、王選手が胸のすくようなホームランを放つ度に決まってこう言っていた「王もよかけど、長嶋はもつとこよかったつばい。もう一回、長嶋は、見たかな」

当時のわたしが知っているのは一本足打法で豪快なホームランをかつ飛ばす王選手だけで、父が言う長嶋茂雄選手のかっこいいプレーを実際に観たという記憶はない。しかし、引退後長嶋さんを、多くのメディアが取り上げる度に残される「迷言」が実にチャミングで、小中学生当時のわたしの笑いのツボに妙にはまってすぐに大好きになった。

長嶋語録①「プロ野球のキャンプ中に、ある選手に「君、僕と同じ誕生日だって？で、何日なの？」

②「ロサンゼルス五輪で金メダルを獲得したカール・ルイスにインタビューする際に」「へい、へいカール！ See You Again!（またね！）」（本当は「前にも会ったね」と言いたかったらしい）

③「好きな数字は？と聞かれ」「それはもちろんラッキーセブンの『3』ですよ」（背番号が「3」だったから？）

“チャレンジするから、夢が叶う”

グラウンドではヘルメットが飛んでいくほどバットを豪快に振ったり、簡単なゴロのボールでもあたかもファインプレーであるかのように大げさに守備をして見せたりと、圧倒的な魅力でファンを魅了してこられた長嶋さん。しかし、長嶋さんは野球だけではなく、ご自身の言動や立ち居振る舞いの一つ一つにおいても、常に周囲の人を喜ばせ、魅了し続けてこられた。そんな人間味あふれる人だったからこそ、長きにわたってみんなに愛されたのだらうと思う。去る三日、長嶋さんが逝去された。心からご冥福をお祈りしたい。

二〇〇四年、野球の日本代表監督としてアテネ五輪の開幕を控えていた最中、長嶋さんは脳梗塞で倒れられた。右半身に麻痺が残り、自力で歩行することは困難だとも言われていた。しかし、長嶋さんは決して病気に屈することなく、むしろ「監督として出場できなかった」オリンピックになんとしても出たい」という一心で、まるで筋トレとも言えるような過酷なリハビリに取り組んでこられた。その甲斐あって二〇二一年の東京オリンピックでは聖火ランナーを務められ、念願を果たされたのだった。そんな姿を拝見し感激したのだが、実はわたしたちの知らないところで壮絶な病との闘いがあったことを、この度の訃報とともに知ることになった。

四日の熊日朝刊には長嶋さんに関する記事がたくさん掲載されていたが、その中にこんな言葉があった。「夢があるからチャレンジできる。チャレンジするから夢がかなう」〇三年、山鹿市で高校生らに講演されたときの言葉だそう。それから二二年。長嶋さんの不屈の精神は、いくつになろうとも常に「夢」がその源流にあった。真に「夢中人（むちゅうびと）」だと思った。だから、多くの人たちが長嶋さんに夢中になったのだらう。そう言えば、長嶋さんを語る父の横顔も笑っていた。

■9日(月)に村内の保育園、小学校及び中学校一斉に引き渡し訓練を実施します。当日は、予めお知らせしております手順に沿って進めてまいります。何分初めての試みですので、不行き届きな点もあるかと思われませんが、保護者の皆様の御理解と御協力をお願いいたします。なお、お気づきの点につきましては事後アンケートにお寄せいただければ幸いです。よろしくお願いいたします。